



実験紹介

掲載年月日	平成16年12月16日	実験タイトル	機関室ビルジ調査
実験期間	平成16年12月12日～ 平成16年12月13日	研究グループ (責任者)	海洋汚濁防止研究G 上田浩一
実験施設	(独)航海訓練所練習船「青雲丸」の機関区域		
実験の目的	海洋に排出される油濁物質を抑制し、海洋環境保護を積極的に推進する。		
実験の公開 の可否	一般見学	-	
	メディアへの公開	-	
実験の概要	<p>実船ビルジ水の発生状況を調査し、同時に発生源の各所からサンプルを採取した。このサンプルはIMOの決議MEPC107(49)(2003年7月18日採択)で指定された方法(国際規格ISO 9377-2:2000 "water quality Determination of hydrocarbon oil index Part 2: Method using solvent extraction and gas chromatography" は試料採取方法及びそれに続く溶媒抽出とガスクロマトグラフによる水中の炭化水素指標の測定について定めている)で分析する。また、試作したフィルターにより、実船ビルジ油水分離(ビルジセパレータ)を行った。</p>		
期待される 成果	<p>IMO 決議では、「15ppm ビルジセパレータは、機関区域ビルジあらゆる範囲の油を取り扱うものであり、船舶で輸送されるであろう全範囲の油に対し効果的であることが期待され、また著しく比重の大きい油またはエマルジョンとされている混合物を十分に扱う」と規定されている。このことは、機関区域の清掃目的として使用される洗浄剤などによって、エマルジョン化したビルジ水が常に存在するということを意味し、このような状況であっても 15ppm ビルジセパレータはエマルジョンから油を分離し 15ppm 以下の流出水を確保する。</p>		
画像及び解 説	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">複雑に集合する機関室排水とエンジンから出る排水</p>		
備考			

お問い合わせは研究情報センター広報国際係 (0422-41-3005, e-mail:info@nmri.go.jp)
までお願いします。